

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	ハートホーム宮野グループホーム		
所在地	山口市宮野下2997-5		
電話番号	083-934-5610	事業所番号	3570300446
法人名	社会福祉法人 青藍会		

訪問調査日	平成 19 年 10 月 26 日	評価確定日	平成 20 年 4 月 5 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人 非常勤 1 人 (常勤換算 7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	3 階建ての	3 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 60,000 円	敷金	有 / 無	円
保証金	有 / 無	円	償却の有無	有 / 無
食費	朝食	330 円	昼食	525 円
	夕食	525 円	おやつ	0 円
その他の費用	月額 14,000円 日額 円			
	内訳 光熱水費 実費(目安8,000円/月) その他の日常生活費 日額200円			

(4) 利用者の概要 (10月26日現在)

利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護 1	4 名	要介護 4 1名
	要介護 2	2 名	要介護 5
	要介護 3	2 名	要支援 2
年齢	平均 86.8 歳	最低 75 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 あんの循環器内科、総合病院・山口赤十字病院、仁保病院 歯科
-------------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴(優れている点、特徴的な取組)】

(優れている点)

通所介護、訪問看護、訪問介護などを提供する複合施設の3階にあり、パワーリハビリの利用、訪問看護師に緊急時に支援を依頼したり、協力体制も整備されています。毎月誕生会を兼ねて「お楽しみ食事会」を行ない、利用者、職員が一緒に買い物、食事づくり、後片付けなどをして、共に楽しく暮らす支援をされています。

(特徴的な取組み)

法人の各種委員会(「接遇委員会」「身体拘束委員会」「医療安全対策委員会」「感染対策委員会」)に参加し検討するとともに、週1回のミーティングで話し合い、サービスの質の向上に努めておられます。ホームで飼っている子犬が利用者の癒しや刺激となっており、畑作業時や犬との散歩が外出の支援になっています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

緊急時のマニュアル、地域等の交流等検討し改善されていました。

(今回の自己評価の取組み)

自己評価を行うにあたり、意義を職員に説明し勉強会を開き全員で検討し実施しておられました。

(運営推進会議の取組状況)

2ヵ月に1回の運営推進会議を、利用者、家族、職員、市包括支援センター、社会福祉協議会の職員の参加で開催しています。事業報告を行い、出た意見は職員同士よく話し合い業務に活かされています。

(家族との連携状況)

家族の来訪時、暮らしぶりを話し、来られない人には電話で連絡しています。電話や来訪時、家族交流会などで意見を聞いています。毎月1回ホーム便りを送付したり、来られない人には電話で連絡しておられます。

(地域との連携状況)

自治会に加入していませんが、地域の祭り、幼稚園や小学校の音楽会、運動会などの行事に参加されています。地域の人から野菜をもらったり、ジュースをお返ししたり、散歩時に挨拶するなど交流しておられます。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>地域の中で日々の生活を自分らしく楽しく、共に過ごすという事業所としての理念は作られている。地域密着型としての理念はつくりあげていない。</p>	<p>・地域密着型サービス理念の検討の作成</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎朝の申し送り時に唱和、毎週1回のミーティングの中で話し合い、理念を共有し、日々のケアに活かしている。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の祭り、幼稚園や小学校の音楽会、運動会などの行事に参加している。自治会には加入していないが、地域の人から野菜をもらったり、ジュースをお返ししたり、散歩時に挨拶するなど交流している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価、外部評価を行うことの意義を職員に説明し、今回の自己評価を行うにあたり、勉強会を開いて全職員で検討した。前回の評価を受けて、緊急時マニュアルの整備、地域との交流など検討して改善している。</p>	<p>・外部評価結果の改善の取り組み</p>
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回の運営推進会議に、利用者、家族、職員、外部は市包括支援センター、社会福祉協議会の職員の参加で開催している。事業報告を行い出した意見は職員同士よく話し合い業務に活かしている。</p>	<p>・地域住民等参加メンバーの拡大</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市担当者とは運営推進会議以外によく質問、相談を行い連携している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月請求書と一緒にホーム便りを送付している。家族が来訪時、暮らしぶりを話し、来られない人には電話で連絡している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	窓口に意見箱を設置し、電話や来訪時、家族交流会などで意見を聞いている。第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きも明確に定めている。家族交流会を月に1回行い、おやつ作りや外出など行っている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応ができるよう職員を確保し、職員の急病や急な休みの時は職員間で勤務調整している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は最小限に留めており、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修を受ける機会は提供されているが、段階的な研修計画は立てられていない。	・段階的研修計画の作成と実施
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	2か月に1回山口市介護サービス提供事業者連絡協議会主催の施設サービス部会へ参加して他施設との交流を行っている。法人内での交流会にも参加しサービスの向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	利用者や家族に事前の見学や体験を勧めているが、サービスをいきなり開始することが多い	・本人の納得と家族の理解が得られるような工夫と検討
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	調理、後片付け、掃除、洗濯物たたみなど一緒に行っている。掃除や洗濯、洗濯物のたたみ方など利用者から教わりながら、「昔取った杵柄だね」と、語りあいながら支え合う関係を築いている。	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	利用者一人ひとりの暮らし方の意向を聞き、できるだけ思いに添えるよう日々のケアに活かしている。	・生活歴の把握
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	利用者や家族の意見を聞き、毎週1回のミーティングで検討し、職員の意見を合わせ、それぞれの意見が反映できるような介護計画を作成している。	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	状態に変化があれば家族とよく面談して話し合い、毎週1回のミーティングで職員と検討し、見直している。定期的には3ヶ月に1回の見直しをしている。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	本人や家族の要望に沿い、緊急対応時の受診など支援を行っている。医療連携体制を基に訪問看護師に来てもらうこともある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間に1回協力機関の往診、必要に応じ通院、電話等に対応連携している。かかりつけ医には家族が連れて行く。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に看取りについての指針を説明し、重度化の場合や終末期に関して家族・協力医療機関の医師・看護師と話し合う場を設けている。現在は食事摂取できない状態の時、今後の方針を検討するようにしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	法人内に「接遇委員会」を立ち上げ、ミニ研修をし、プライバシーを損ねるような言葉かけには注意している。記録等個人情報の保管、取り扱いは気をつけている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側のペースにならないようにしているが、職員側のペースになっていることもある。	・入居者のペースを大切にする支援の工夫
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日昼食時に入居者と一緒に味噌汁を作っている。月1回は「お楽しみ昼食会」を買い物から後片付けまで一緒に行っている。	・利用者と職員と一緒に食事をする工夫
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は隔日で、13時から16時と決めている。ただし、希望があれば入浴日でなくても可能になる支援をしている。	・入浴回数と時間の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	テレビ視聴、カラオケ、大正琴、体操、散歩、外出、買い物、犬の世話など日常生活の中で楽しむ場面作りを行っている	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日の散歩、買い物は必要に応じ支援している。ホームで飼っている犬との散歩は利用者の外出意欲につながっている。	
(4)安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人の「身体拘束委員会」に参加し、ホームで定期的に勉強会を行っており、全職員が身体拘束についての理解と抑制のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	周囲が道路に囲まれているビルの3階にホームがあり、安全面から終日鍵をかけている。	・鍵をかけない工夫
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時のマニュアルがあり、事故・ヒヤリはと報告書に記録し改善策を講じている。法人の「医療安全対策委員会」で事故発生時の対策や予防を検討し、週1回のホームのミーティングで同様に検討し、事故防止に努めている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを整備し、救命救急講習を受けている。定期的な訓練をしていない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災時の避難誘導訓練を1年に2回行っている。地域から協力を得るための働きかけはしていない。	・地域から協力を得るための働きかけ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の説明書を全職員が把握し、服用の都度、手渡し確認している。2週間に1度の往診時には服薬の状況、状態の変化の有無を報告し、医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後口腔ケアの支援をしている。一人ひとりにあった歯磨き支援の場面が、当日見られた。歯ブラシ、義歯などの清掃、消毒、保管についても支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量を把握記録し、法人からの配食であり、栄養バランス、カロリーも把握している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	法人内での「感染対策委員会」があり「感染対策マニュアル」を作成し、ホーム独自で予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ホームの中に観葉植物の緑があり、窓も広く多いためとても明るく、不快な音もなく、犬がいるため利用者の癒しにもなっている。壁や棚には入居者の作品も飾ってあり、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	部屋には作り付けの箆笥、ベッド等ホームで用意されており、使い慣れた個人の家具を持ち込んでいる人が少ない。写真や生活用品は持ち込まれている。	・好みの物品の持込の検討

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	ハートホーム宮野グループホーム
所在地	山口市宮野下2997-5
電話番号	083-934-5610
開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (9 月 現在)

ユニットの名称	ハートホーム宮野グループホーム
ユニットの定員	9 名

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		地域に根ざす施設として、理念の中に盛り込んでいく。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		地域へのアピールの方法を検討し、実施していく。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行うに当たって、勉強会を開催している。また、その際には自己評価や外部評価を行うことの意義を説明を行っている。	今後、自己評価・外部評価を受けた後の改善をどのように行っていくかを検討する。
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回実施し、報告等を行っている。また、その中で出た意見は、業務に反映できるよう職員同士で話し合いを持つようにしている。	地域住民の代表が少ないので、まずは民生委員からメンバーに入ってもらえるようお願いをする。また、職員もローテーションで参加させたい。
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所介護保険課とは疑問や質問を行い、相談を行っている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	勉強会を行う機会はあるが、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についてはまだ行っていない。	今後の勉強会の中で取り上げていくように、交渉を行う。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内に身体拘束防止委員会を設置し、虐待についての勉強会を実施している。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を行うときには、契約書・重要事項説明書を基に、時間を掛けて説明を行っている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約の際に意見やクレームを表すための方法の説明を行い、施設内に設置してある「ご意見箱」の説明も併せて行っている。	
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ご家族に対する説明については、お越しいただいたときにお話しさせていただいている。また、中々こられないご家族に関しては、お電話で報告をしている。	定期的ではないので、定期的に出来るよう、情報の収集や、方法の検討を行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。			
18 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	法人として「苦情対応規定」を制定。それを基に苦情への対応を行っている。また、契約を結ぶ際に苦情への対応方法、第三者委員、公的機関等の説明を行っている。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週に1回のグループホーム内でのミーティングや施設内でのミーティングにて職員の提案等を聞く機会を設けている。		職員がミーティング内で活発に発言できるように環境設定や、質の向上を図っていく。
20 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務時間は固定されており、現行では難しい。ただし、行事等特別な場合においては、時間の調整を行い、職員の確保に努めている。		日常的な場合の対応が出来るように、業務の見直し、改善を行う。
21 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動は最小限であり、入居者に対するダメージも少ないと考える。		今後も、職員の移動や離職が少なくなるように努める。
5. 人材の育成と支援			
22 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修を受ける機会はなるべく設けるようにしているが、職員教育のための計画が無い。		職員教育計画を立案し、それに沿った研修への参加等を行っていく。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	多様な年代、性別の職員の配置は出来ていると思うが、それが生かされていないように感じることもある。		職員の得意分野や、年代・性別の差が生かせるように職員への教育が必要。
24 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	2ヶ月に1度、山口市介護サービス提供事業者連絡協議会主催の施設サービス部会へ参加し、他施設の職員との交流を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		休憩時間内で、入居者から離れて過ごす時間を少しでも確保できるように、検討する。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		今後、入居前に事前に訪問等を行い、お会いすることを検討する。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		ご家族と検討しながら、出来れば事前の見学や体験をお願いしている。今回は入居までに若干の時間があるため、荷物搬入の際に体験をお願いしたが、ご家族が希望されなかった。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		出来る方は、積極的に何でもしていただいている。また、出来ない方に関しても何もさせないのではなく、近くで行い、見たり聴いたりすることが出来るように援助を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	積極的に家族交流会への参加を促し、その中で家族参加型のプログラムを行っている。		全員の参加が出来ていないため、全家族が参加できる日程の調整が必要。
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	日常生活の風景や、行事の対応状況を掲示し、話をするきっかけ作りを行っている。また、情報を定期的に発送している。		キーパーソンのみとの繋がりになりがちなので、キーパーソン以外の家族との連絡をとる等の方法を検討する。
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の馴染みの地域や人とのつながりの維持は現在は出来ていないと考える。どうしても、ホームの中だけになりがち。		まずは電話や手紙を知人に出す、というところから始める。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士が話しをするコーナーは沢山あり、いつも会話が盛り上がっている。また、居室で過ごすことを好む方については居室で過ごされるが、レクや行事などには参加されている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後の関係は基本的に継続できていないことが多い。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ入居者一人一人の意向を聴きだし、それを日々のケアに生かしている。ただし、本人の生活暦の把握はまだ不十分などところが多い。		まずは、生活暦の把握、掘り起こしから行っていく。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活暦の把握は上記の通り、不十分な点が多い。なるべく、家族からの聞き取りを行っている。		生活暦の把握、掘り起こしの実施。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	現在の生活リズムの把握、出来ること、出来ないことの把握に努め、見守りのもと実際に実施していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の意向を反映しやすいように、ケアプランの整備を行った。また、職員の意見を反映するために、週一回のグループホームミーティングを行っている。	
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	急な状態の変化に対応するように、定期的なミーティングを開き、職員と話し合っている。また、家族とも状態に応じてケアプランを変化させるように面談を実施している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に基づく記録の実践を指示、指導を行っている。まだまだ、満足のいく記録にはなっていないと感じる。もっと、介護職員一人一人の気づきが入ってくるようにしたい。	記録方法の勉強会の実施。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	緊急対応時の受診を行っている。また、軽度肺炎時など医療連携体制を基に訪問看護師による点滴の実施を行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣文化・教育機関の行事(幼稚園の運動会参加等)は行っているが、民生委員や警察、消防等との連携については不十分。	秋季防災訓練実施時には、消防署からの指導を行ってもらえるよう調整を取る。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)	状況に応じて、ボランティアや見学・研修の受け入れは積極的に行っている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	理美容サービスは実施できている。また、入居者が在宅に折られたときの介護支援専門員と必要に応じ、連絡を取っている。	他サービスの把握。それを生かせるように支援に結びつける方法を確立する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		今後、入居前に事前に訪問等を行い、お会いすることを検討する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>入居者に対する言葉掛けについて、法人内に「接遇委員会」を立ち上げ、ミニ研修を実施している。</p>	<p>今後、職員一人一人が接遇面に関して、注意がしあえる環境作りが必要と考える。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>出来るだけ、本人の自己決定能力を尊重した声掛けを行っている。拒否された場合には、何度か誘うようにしているが、最終的には自己決定を尊重している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>出来る方は、積極的に何でもしていただいている。また、出来ない方に関しても何もさせないのではなく、近くで行い、見たり聴いたりすることが出来るように援助を行っている。</p>	
59	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員側のペースで一日の流れが出来ている部分もあるが、入居者の希望をなるべくかなえるように、生活の支援を行っている。</p>	<p>入居者のペースで生活することの大切さを再度検討し、現在職員のペースで流れている部分を洗い出し、改善方法を検討する。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理美容に関しては、月に1度こられる方をお願いをしている。ただし、外出時などにおしゃれが出来るように、支援を行っている。</p>	
61	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>昼食時には毎日味噌汁を入居者と一緒に作っている。また、後片付けも一緒に行っている。月に1度は「お楽しみ昼食会」として、買い物から後片付けまで利用者と一緒に行う様になっている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>嗜好品については、基本的に強い関与を行わないようにしている。現在のところ、煙草を吸う方はいない。また、お酒に関しては「お楽しみ昼食会」の開催時、ノンアルコールビールで雰囲気を楽しんでいただいている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>トイレ誘導は個別に排泄パターンを検討し、トイレでの排泄があるように支援している。また、行動パターンからトイレのシグナルを得て、誘導も行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。</p>		現在の状況から、まず毎日入浴できる体制を作る。
65	<p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		一人一人が行きたいと思うところに行ける支援を行えるように検討。
70	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		年間行事予定表を作成し、家族へ案内を行う。
(4)安心と安全を支える支援			
74	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		急変時の訓練を定期的に行えるようにする。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告者や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		地域住民の協力が得られるような体制作りが必要。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには花のプランターを沢山設置している。	
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	観葉植物を多く配置し、精神的な安定が図れるようにしている。また、犬の存在も入居者にとって良い刺激になっていると考える。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室にて過ごされたり、畳のコーナーや、食堂にソファを設置しているので、入居者各々活用しておられる。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	布団や箆笥は施設に準備もしてるし、個人の物を使用される方もおられる。	個々人のものに変えていくことで、好みや配置などの工夫を行う。
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	臭いや空気のだよみがないよう、換気を行い、温度調節も適宜実施している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	手すりやマットを使用し、身体機能を生かし且つ安全に生活ができるように工夫を行っている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室前に名前や作品の掲示を行い、居室間違えを未然に防ぐ工夫を行っている。また、混乱の時には時間を取って話し、失敗の時にはさりげなくフォローを行うようにしている。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダにて洗濯物を干したり、夕涼みにしようしたりしている。また、畑にて野菜を育て収穫するようにしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない